

2022年度事業報告

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』各号の記事参照

2022年度は、前半は新型コロナウイルスの影響がまだ残り、後半は徐々に普段の活動が戻ってきた1年でした。振り返ると、21年度のA級リーグが緊急事態宣言発令により延期され、22年1月になったのは異常な事態でした。それに加え、A級リーグが終了して間もなく、A級棋士であり副理事長であった飯尾八段を失うという非常に悲しい出来事がありました。また、挑戦手合いについては中村名人の体調が不調のため、A級リーグの上位2名の間で22年5月～7月に行われました。その結果、神谷八段が新名人に就位しました。そして、第60期名人戦がすぐにやってくるというこれもまた非常に特異な年となりました。A級リーグでは、中山九段が見事挑戦権を獲得し、1年に2回同じカードで決定戦が開催されました。挑戦手合いでは充実著しい神谷名人が防衛することとなり、1年で2度名人位に就きました。まさに目まぐるしい1年を締めくくる快挙であったと思います。シード争いにおいては、この度永世名人に就位することになる長谷川九段が3位に食い込み、関西に貴重なシード権をもたらしました。今後は中村永世名人の体調が戻ってまた名人戦に参加されることを期待します。

コロナ対策も落ち着いてきましたが、マスクの着用や対局室の人数制限については継続しております。その代わり、Webを積極的に活用した活動が定着し、『五目クエスト』と連動した普及活動も続いております。その結果として、級位認定証を取得するマニアが増え、五目クエストオフライン大会につながりました。また、初の試みとして、わくわく連珠大会を開催し、リアル連珠参加者のすそ野を広げたのは有意義であったと思います。

SNS等インターネットを通じて引き続きアピールも仕掛けており、徐々に浸透していると思われます。コロナ禍で在宅が増えたことを逆にチャンスととらえ、新しい仕掛けを今後増やしていきたいと考えています。ご協力いただいた多くの役員・会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

一方で、日本連珠社『定款』には第3条事業目的で明記されている「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれています。残念ながら昨年度もコロナの影響ですべての海外棋戦が中止・規模縮小に迫られました。今年は世界戦を始めとした国際大会が復活するようですので、日本選手の活躍が期待できます。

また、各地域で連珠公認指導員を中心として、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という【公益事業展開】を積極的に継続していく予定であり、日本連珠社としても引き続き全面的にバックアップしていきたいと考えております。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

【総会に関する事項】

(1) 定時会員総会

- ・2022年5月29日(日)13:30～14:50 於：森下文化センター第4研修室
- ・出席会員数71名（うち委任状60名、会員総数111名、出席率64%）
- ・議長には河村典彦氏が選ばれ、書記に河村典彦氏、岡部寛氏、林昭一氏の3名を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、岡部氏・林氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・2021年度の事業報告について、議決承認された事業報告文を河村理事長が簡単に説明した。
- ・2021年度の財務諸表等について、辻監事より処理が適切であったことが報告され、議案書通り賛成多数で承認された。
- ・2022年度事業計画と収支予算案について内容を河村理事長が簡単に説明した。
- ・普及に関する検討が議論され、会員との間で活発な意見交換を行った。
- ・議事録を全正会員（特別会員・家族正会員を含む、以下同じ）に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2022年7月号に掲載し、2021年度事業報告・収支決算、2022年度事業計画・収

公益社団法人日本連珠社 2022年度事業報告

支予算案、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳細を割愛します。

[理事会に関する事項]

- (1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略） 2022年4月21日(木)～同5月7日(土)
 - ・出席役員 理事10名「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・第3号議案で荒井豊氏、飯尾義弘氏を特別表彰することが決議された。
 - ・議事録を全役員に配布した。主要議案が、会員総会議案「2021年度事業報告・財務諸表等」に絞られていたため、議事詳細を割愛します。
- (2) 第2回理事会 2022年5月29日(日)10:30～16:30（途中昼食休憩と定時会員総会開催のため、12時15分～15時迄中断） 於：森下文化センター第4研修室
 - ・出席役員 理事9名（理事総数10名）、監事1名（監事総数2名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長・岡部理事・林理事、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：河村理事長、監事1名
 - ・第1号議案で、2022年度特別表彰者を選出した。
 - ・第5号議案で、2022年度連珠社運営体制について了承された。
 - ・第7号議案で、連珠社HP見直しについて検討を行った。
 - ・第8号議案で、連珠普及のための方策提案の検討を行った。
 - ・議事録を全役員（理事12名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2022年8月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 2022年10月30日(日)13:00～15:30 於：森下文化センター
 - ・出席役員 理事9名（理事総数10名うち3名はリモート出席）、監事1名（監事総数2名）
 - ・議長：河村理事長
 - ・書記：河村理事長、議事録作成者：河村理事長、議事録署名：河村理事長、監事1名
 - ・第1号議案で来期のA級リーグの開催場所が検討された。
 - ・第2号議案で長谷川永世名人就位式について検討を行った
 - ・第3号議案で来年度の役員人事について検討を行った。
 - ・第5号議案で連珠社新ホームページについて検討を行った。
 - ・第6号議案で、連珠普及のための方策提案の検討を行った。
 - ・議事録を全役員（理事10名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2023年1月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会（定款第38条決議の省略） 2023年2月8日(火)～同2月21日(月)
 - ・出席役員 理事10名全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・議事録を全役員（理事10名・監事2名）に配布した。前年度とほぼ同内容の2023年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を日本連珠社ホームページに掲載するため、議事詳細を割愛します。

[委員会活動報告に関する事項]

- (1) 総務委員会
 - ・各段位免状発行、五目クエスト実績による級位認定書の発行を行った。
 - ・第八世永世名人推戴状を作成した。
 - ・会員名簿管理、機関誌送付先管理、入会・退会者管理を行った。
 - ・盤罫紙発送手配を行った。
 - ・総会案内・会員名簿・会員証発送、昇入段者・新規会員の発表を行った。
 - ・第59期・60期名人允可状発行を行った。

公益社団法人日本連珠社 2022年度事業報告

- ・飯尾さん追悼九段を行った。
- ・内閣府への各種報告、活動計画提出資料の登録を行った。
- ・寄付入金者の発表と領収書の送付を行った。
- ・ホームページからの問い合わせの対応を行った。
- ・ゴムマット盤の販売・送付を行った。
- ・在庫書籍の見直し処理・送付を行った。

(2) 普及推進委員会

- ・東京の拠点として東京連珠会を毎月実施した。2023年3月で254回を数える。
- ・2018年度に作成した「級位認定規定、級位認定ガイドライン、級位認定例題、連珠ドリル」を普及活動の中で活用した。(浜松連珠会、多摩連珠会)
- ・全国各地で、定例会をはじめ公式戦を行うことにより、連珠の普及活動に努めた。
- ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア活動を継続実施した。
- ・桑名囲碁将棋サロン庵、将棋の森、和歌山市さしどきなど、囲碁将棋サロン、ボードゲームカフェなどを訪問し指導対局などを通じて宣伝を行い、知的文化の向上に寄与貢献した。
- ・他競技の愛好家との交流を積極的に行ない、シモキタ名人戦、バックギャモンフェスティバルをはじめとする各種イベントへ出展し、普及推進につなげた。
- ・全国各地で自治体・自治会などが主催するイベントに出展し連珠の認知度をアップさせた。(地域イベントでクイズ形式で小学生向けの「にゃんこならべチャレンジ」を実施して普及に努めた。)
- ・小学校の土曜教室、クラブ活動、夏休み体験会で連珠教室、競技会を開催し普及推進につなげた。
- ・SNS上で詰め連珠他の情報発信を行い、「連珠」の認知度を上げた。
- ・普及活動を連珠世界誌、連珠社HPで報告した。
- ・各支部の例会に利用している公民館にパンフレット、連珠会案内を置き普及に努めた。・スポンサー大会として「わくわく連珠大会」「五目クエストオンライン大会」を開催した。
- ・各地区のイベントで子ども用ににゃんこならべ大会を開催した。
- ・五目クエストの友達機能を使ってオンライン大会を開催した。(オンライン浜珠戦、5月と1月など)
- ・普及推進委員メールにて普及活動に関する情報交換を行った。
- ・公共施設に連珠関連資料(開催案内他)を置き普及に努めた。
- ・桑名七盤勝負、トライボーディアン RCB エディションなどに参加し、他競技の参加者と交流した。
- ・普及推進委員会で普及ツールを管理し必要に応じて普及推進委員に提供した。

(3) 財務委員会

- ・日々の入出金を管理すると共に、収支決算書及び財務諸表を作成した。一方、より緻密な財務管理のため、2023年度予算(案)も過去のデータ分析から現実的な予算編成を行なった。
- ・収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。
- ・各委員会活動の精算や理事会、総会、名人戦の精算を遅滞なく行った。

(4) 広報委員会

- ・有志の協力を得て、一般向けに第60期名人戦五番勝負・A級リーグの中継を行なった。
- ・名人戦等の開催にあたり、マスコミ、他競技、桑名七盤勝負などの関係者と連絡を取り、取材対応、広報活動を行なった。
- ・SNSへの情報提供を行なった。
- ・「シモキタ名人戦」「徳島城博物館子ども歴史講座」をはじめとする各種イベントへ出展した。

(5) 国際委員会

公益社団法人日本連珠社
2022年度事業報告

- ・RIF会長に新しくエストニアのミルメ氏が就任したので、Webを用いて複数回打合せを実施し、連珠の諸問題について議論した。
- ・五珠交替打ちに開局規定を変更するかどうかについて、RIFを通じて日本以外の状況を確認した。

(6) 機関誌編集委員会

- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、802号から813号まで遅滞なく発行した。
- ・事務局と連携し、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。
- ・一般者から【公益事業活動】として理解してもらいやすい、女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア記事を掲載した。

(7) メディア委員会

- ・SNS等の社会のネット利用環境の変化に応じたホームページのあり方を検討し、その方面の経験豊かな人をメディア委員に参加してもらおう等して、新たな形態でリニューアルされたホームページを作成し、公開した。
- ・従来のホームページで提供していた公式棋戦の予定や結果情報、各地連珠会やイベントの予定情報、易しめの詰連珠等も拡張した形で継続して提供している。
- ・これらの作業とともに、連珠社組織内のメーリングリストやメールアドレスの整理・管理を行なった。

(8) 珠規審議委員会

- ・四珠交替打ちの実施状況を確認し、新たな開局規定の必要性を検討し、五珠交替打ちへの移行の方向性を理事会に提案した。
- ・日々のメールやSNSでの連絡において、各国の棋士と意見交換を行なった。

(9) 段位審査委員会

- ・昇入段申請があり次第、日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく段免許状の発行と機関誌上での発表を行った。
2022年度に於いては、理事会で審議すべき例外事案の発生はなかった。
- ・2022年度昇入段者数は下表の通り。昨年同様昇入段申請は活況が続いており、2022年度は前年度並みの34名の申請があり、遅滞なく承認した。五目クエスト経由での入段、級位者・低段者棋戦の活性化などが主な要因と考えられる。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	永世名人	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	合計
2022年度		2	0	1	3	3	5	5	3	12	34
2021年度		1	0	1	3	2	0	4	8	14	33
2020年度		0	0	0	0	1	3	1	5	10	20
2019年度	1	0	1	1	1	2	1	2	2	7	18
2018年度		0	0	1	0	2	1	0	1	4	9

(10) 名人戦運営委員会

- ・第59期名人戦挑戦手合いは、中村茂名人が辞退したため、A級リーグ1位であった中山智晴九段と2位であった神谷俊介八段との間で5月～7月に行われ、神谷八段が1勝4分の成績で新名人となった。
- ・第60期名人戦は、コロナ禍から地方での活動が復活したことにより、無事7月には10名の代表選手を選出できた。残念ながらシード権があった中村茂永世名人は出場辞退となった。
- ・挑戦者決定リーグ戦を、2022年9月に焼津市の<西焼津セントラルホテル>で実施した。中山智晴九段が7勝2分の成績で優勝した。
生中継はできなかったが、棋譜の配信、ツイッターを通じた結果速報を行った。
また、同名人位挑戦手合い5番勝負は、10月に行われ、2勝1分の成績により神谷名人が防衛した。

公益社団法人日本連珠社
2022年度事業報告

(11) 記録委員会

- ・連珠国際連盟ホームページへの公式戦棋譜登録を行なった。登録にあたっては、メディア委員会と連携し、各地区から有志の登録者を選出した。
- ・世界選手権の再開に伴い、世界ランキングによる出場権の情報提供を行なった。

(12) 詰連珠通信戦委員会

- ・通信戦は予定通り 110 回を以て終了した。
- ・2021 年に発表された全ての詰連珠関連の創作物を対象として、第十六回詰め連珠大賞を選考、決定した。大賞は該当なし、作品賞は中村茂氏作「孤高の露天風呂」（21 年 4 月）となり、カップを贈呈した。
- ・第 47 回四追い作品コンクール、第 43 回限珠案コンクールを実施した。
- ・特別昇入段テストを実施、宮本俊寿五段が合格した。
- ・月例詰め連珠、天狗道場をつつがなく実施した。
- ・月例詰め連珠で、原口豊秀四段が昇段点に達したので、昇段申請書を郵送した。

(13) 特別表彰制度

- ・2022 年度は、荒井豊氏（山口県）、飯尾義弘氏（兵庫県）の 2 名を特別表彰した。